

SEMINAR REPORT



小学4年生を対象にした吉元氏の「思想表現」の授業。中学受験の有無にかかわらず、考える力を養う授業を展開している

文島に1階を隣を構えて授業が行われている。授業内容は、論議、読書、文章作成など。中学生から小学生まで、幅広い年齢層の生徒が参加している。

「宿題やっていますね」LINEで保護者と密に連絡  
吉元氏は今、母親とのコミュニケーションに力を注いでいる。そ

●指導のポイント  
講師は勉強のコンサルタント。10年先に役立つ、自分で勉強できる人間に育てる。

自由塾には七訓がある。「礼儀正しくする」「お父さん、お母さんを大切に」「友達と仲良くする」「先生の話をよく聞く」「自分の事は自分でする」「時間を守り、大事に使う」「けじめをつける時はやる」の7つだ。学習はもちろん、情操教育も大切にしている。

塾は自分で考えて勉強する場 体験授業は1カ月間

●指導のポイント  
小学校低学年から、ことばの学校で国語力を養成。適性検査に対応できる思考力・表現力を身に付けさせる。

が印象的だった。

「ここは生徒が自分で考えて勉強をする場所。理想としているのは、勉強のコンサルティングですね。入塾相談では「うちはこういう塾です。宿題も多いので、覚悟して来てください」と伝えていきます。」と吉元氏。

塾の方針をしっかりと理解してもらうため、体験授業は1カ月間（無料）。入塾したらその1カ月の月謝を入会金としてもらうシステムを取っている。

吉元氏はここでの勉強は「10年先に花開く土台づくり」と、保護者に伝えていく。「それを、自由塾の中島正浩塾長は『後伸び』と表現しています。特に都立中高一貫校は倍率も高く、痛みも伴う受験です。だからこそ、例え不合格であっても、この先役に立つ勉強法を伝授したいと思っています」

「使っているのはデジタル技術ですが、血の通ったコミュニケーションをしたいと思っています。生徒と塾と家庭。三方よしでないと、学力は伸びていきません。ほかにも保護者には週1回はメルマガを送るなどのケアをして、サイレントクレーマーや退塾者を出さないようにしています」と吉元氏。

「プランは2つあります。1つは今は全く違う業態の塾です。総合カウンターがあって、ICT教材や施設は使い放題。基本は自主学習ですが、希望すれば個別指導が受けられる。トレーニングジムやサロンのようなイメージです

●運営のポイント  
公式LINEアカウントを使い、保護者と密にコミュニケーション。退塾者を防ぐ。

もう1つはビデオ会議システム「Zoom」を使った、遠隔地の生徒との双方向授業です。以前、不登校の生徒をこの方法で指導したことがあるのですが、そうした生徒は早い時間帯に指導ができるので、可能性を感じています」



で、む講師付ボの学本が1をサはしても講師が生徒こと集中して、生徒

1対1の小学英語のレッスンの様子。指導しているのは吉元氏の奥様で、ルーマニア出身の吉元IULIANAさん

自由塾町屋教室に学べ!

SEMINAR REPORT



自由塾町屋教室(東京都荒川区)  
教室長 吉元 和彦さん  
プロフィール  
1976年3月生まれ。43歳。長崎県生まれの浅草育ち。小学校5年生の時、自由塾入谷教室に入塾。米国 Davis & Elkins College演劇学部演劇学科卒業。帰国後、俳優活動をする傍ら自由塾の講師を務める。2014年2月、町屋に自由塾町屋教室を開校(自由塾FC)。現在、YouTubeチャンネル「下町塾長会議」にも出演中。ニックネームは生徒をほめる時の「ブラボー」から「ブラボー先生」。

ブラボー先生®が教える、下町の寺子屋の快進撃 「10年先に花開く」勉強の土台づくりを

都電荒川線の町屋駅前のほど近く。教室の前に路面電車が通る、自由塾町屋教室。入って驚くのは、座卓に向かって勉強をしている子どもたちの姿だ。その様子はまさに「THE寺子屋」。塾の中には元気な子どもたちの声が響き、活気で溢れている。町屋教室は開塾当初から、都立中高一貫校受験対策に力を入れており、思考力や作文力を高める指導は高く評価されている。「ニュース作文コンクール」全国大会には毎年多くの入賞者を輩出。下町の塾として開校してから5年。早くも地域屈指の人気塾に成長している。

国語力がぐんぐん伸びる 荒川区で一番文章を書かせる塾  
「僕自身、自由塾入谷教室の卒業生で、ずっと座卓で勉強していました。だから塾を始めるにあたって、当たり前のように座卓を購入したんです」  
そう笑顔で話すのは教室長の吉元和彦氏。  
吉元氏の「思想表現」(4年生)の授業と、吉澤優美教務主任の「都立中高一貫校論文の授業」(6年生)の授業は座卓で行われている。思考力や表現力が必要な高度な内容にもかかわらず、生徒から次々と発言が飛び出す。生徒のやる気を引き出す指導力はもちろんだが、座卓のリラックス感も後押ししているようだ。  
また、個別指導の隣で自習生が勉強するなど、ポーターフリーに学習できるのもイスのない座卓ならではのポイント。イスとテーブルの部屋もあり、うまく使い分けられている。現在生徒数は小学生が80名、中・高生が70名の約150名。当初は小学生の割合は公立進学と中学受験がほぼ半々だったが、年々中学受験を目指す生徒が増えていく。  
同教室では都立中高一貫対策として、小学低学年から「ことばの学校」とパズルを、4年生で準備クラス「思考表現」の授業を行い、



自由塾町屋教室の外観。自転車を止められるスペースが十分に確保されている

「ことばの学校」は漢方薬のようにゆっくりと国語力が付いていくイメージ。受講生は語彙が増え、自分から本を読むようになっていきます。特に、都立中高一貫校の問題は数千字の文章を読んで、最後に400字前後の作文を書かなければなりませんので、そのための良い練習になると思っています」と吉元氏。  
都立中高一貫校の論文の授業は「荒川区で一番文章を書かせる授業」を目指し、様々なテーマで文章を書かせる。取材中では、どんな題が出されてもすぐに鉛筆を取り、書き進めていく生徒の姿